

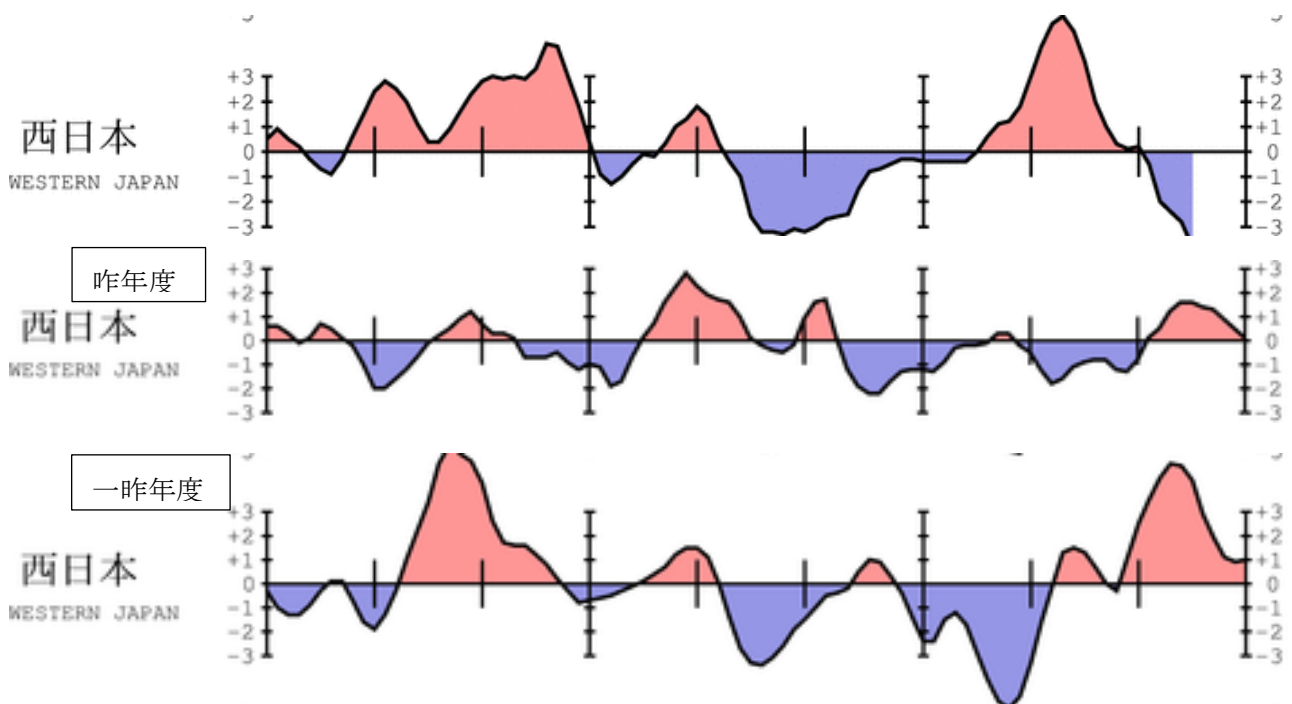
3年越しのコロナの感染症も、増減を繰り返しながら一向に終焉の気配は見られません。ただ、流行初期に比べると、予防ワクチン接種、完全とは言えないまでも治療薬の出現で恐怖感は可成り変わって来ているのが現状ではないかと思います。相変わらず、TVのニュースや新聞紙上では地域ごとの感染者数が報じられています。コロナ感染者数の累計は最近では、全国では3,200万人以上に達していることが分かります。この数字からは国民の4人に1人は感染したことになるわけですが、私の身近でも、昔の会社の同僚や息子の嫁・孫が感染、2,3日発熱や喉の痛みがあったようですが何れも後遺症もなく元の生活に戻っています。この様な現状を見れば、最近の種々な緩和策も可かなとは思いますが。だからと言ってもシニアの身、勿論、用心に越したことはないと警戒は続けて行くつもりです。

さて、本題の「サクラだより」本年は如何にしようかなと思いましたが、今年もこれまでよりは少し踏み込んだ区分によって科員全員参加の「ソメイヨシノ」の開花・満開日などの観測を続けることが決められましたのでお邪魔虫かも知れませんが継続して見ようと思っています。

本報では例年通りサクラの開花等に大きく影響するこの冬の気温の傾向と気象庁が最近発表した今後の気象予報、最近気象会社が発表した今年の「ソメイヨシノ」の開花・満開日の予想、既に開花が始まっている沖縄・奄美でのヒカンザクラの開花情報、近所歩きで観察されたサクラ類の状況等々記述しておこうかなと思っています。

1. 今年の冬季の気温の経過。

1-1. 西日本の気温推移（平年差・昨年・一昨年度と比較・新平年値に準拠・気象庁発表抜粋）



*サクラの休眠打破に影響するのは11月~1月の気温とされていますので掲載。昨年度は「ラニーニャ」の影響を強く受け、どちらかと言えば平年並みかやや寒冷な気候となりました。気象庁も当初の予

報では今年も「ラニーニャ」現象が続くので寒冷な気候になるとの予報を発表していました。しかし、12月7日にこの「ラニーニャ」現象が終わりに近く、初春には逆に「エルニーニョ」に移行のみ込みとの特別発表をしました。同時に、12月末に発表された向こう1ヶ月及び3ヶ月予報ではこの冬の気象気温も西日本地域では平年並みかやや暖かくなるとの変更が出されてきています。一番関係の深い近畿地区の今後の気象予報については後述します。

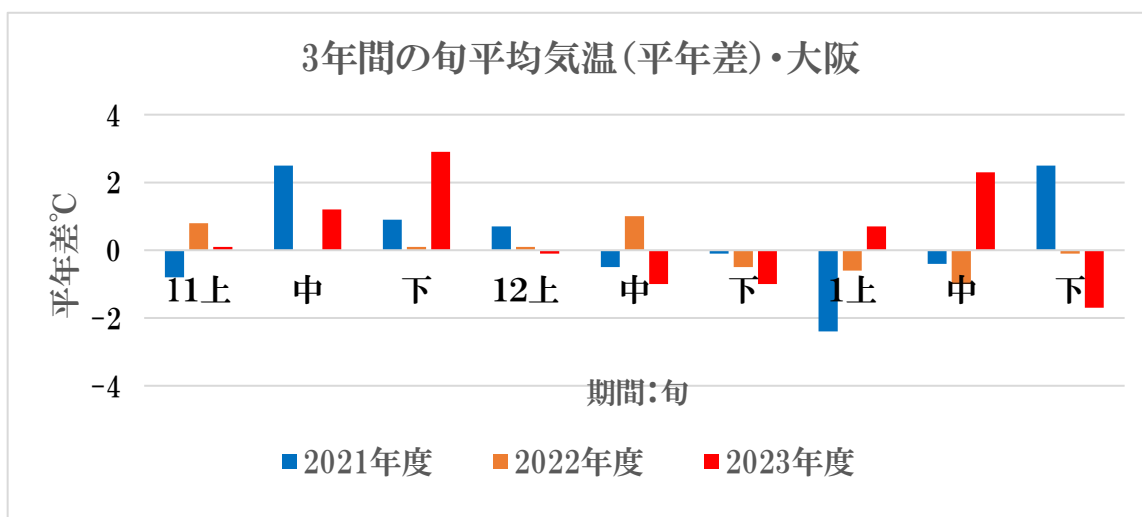
・上に掲載した「11月～1月」の気温経緯図については、昨年度説明済み。地域の自然界の営みを比較するには最も有効な情報源であると考えて掲載してきています。気象関係者はこの期の気温の高低が「ソメイヨシノ」の休眠打破に大きく影響するとして開花予想等に重要視しているようです。

・気温経過図を掲載したので「ソメイヨシノ」の開花・満開についての関連を少々解説。一昨年の2021年度、昨年の2022年度は11月末から1月にかけて寒冷となっており、休眠打破は平年より早く進んだと考えられました。2021年は、図にも表れていますが、1月の後半から温暖化、2月、3月も暖かい日が続いたので、各地で記録的に早い開花・満開となりました。2022年は前年以上に寒冷な期間が続き平年よりは休眠打破進んでようですが、2月も平年並みかやや低い気温であった為、開花も平年並みではと予想されていました。結果は3月に入って気温が急上昇、中旬には4月末頃の気温が記録されるなどで平年より早い開花となりました。また、「休眠打破」の期間が短くなったのか、開花日から満開日間の日数が短くなるなどの現象が見られた年でした。

・今期はどうなるのでしょうか？12月中旬以降は寒冷とはなりましたが、問題は11月の気温。各地で観測史上2番目に平均気温が高い月となりました。「サクラ」やモミジの紅葉が大幅に遅れたのはご承知の通り。「ソメイヨシノ」に関しては休眠打破が遅れる要因になったのではないかとみられています。

1-2. 大阪の気温の推移

西日本という広域でなく、身近な大阪（市）の11月～1月の期間の旬の気温を新平年値との差異でみて見ました。ほぼ、前出の気象庁の西日本地域の気温経緯に準拠していると思われます。



・なお、この間の積算温度(°C・Day)を算出して見ると以下の通りです。

(平年)	870 °C・Day	*個人的には、11月の気温が「休眠打破」
2021年度	903	に影響するのかは疑問もありますが、気象
2022年度	869	予報士など専門家は11月～1月の気温を
2023年度	904	考慮しているようなので今回は採用。

この値が「休眠打破」に関係するなら、今年は 2021 年並み、昨年は平年並みであったと考えられますが・・・。開花は今後の気象条件次第。因みに今月 27 日に気象庁が発表した近畿地区の今後の気象予報は以下の通りである。

1－3. 近畿地区の向こう 3 ヶ月間の気象予報（気象庁・1 月 26 日発表）

向こう 3 か月の気温は、ほぼ平年並ですが、4 月は、暖かい空気に覆われやすいため、平年並か高いでしょう。向こう 3 か月の降水量は、低気圧や前線の影響を受けにくいいため、太平洋側では平年並か少ないでしょう。 **近畿太平洋側：気温、低 30%、並み 30%、高 40%、降水量、少 40%、並み 40%、多 20%**

なお、大阪管区気象台発表の向こう 3 ヶ月間の気象予報は、気温に関して、

- ・2 月気温は平年より高い確率 30%、平年並み 30%、平年より低い 40%
- ・3 月気温は平年より高い確率 40%、平年並み 30%、平年より低い 30%
- ・4 月気温は平年より高い確率 40%、平年並み 40%、平年より低い 20%

この冬の寒さは 2 月までは続き、3 月には暖かくなるとの予報です。予報は予報ですが、観測精度が上がって来ているので最近は良くあたるのですが・・・。12 月に出された本年 1 月の 1 ヶ月気象予報はほぼ完全にあたっていました。

2. 今年の「サクラ（ソメイヨシノ）」の開花予報—1

毎年この季節になると、所謂「気象予報会社」各社から、本年度の「ソメイヨシノ」の開花・満開の予報（第 1 報）が出されて来ます。各社からは、今後の気象の経緯、予測を加えて修正版が出されて来ます。専門家は今年の「ソメイヨシノ」の開花・満開日等をどう見ているのでしょうか？ご参考の為、一例を挙げておきます。（日本気象協会・1 月 26 日発表より抜粋）

【西日本】

今期の気温は、10 月は平年並みか平年より低め、11 月は平年よりかなり高め、12 月は平年より低め、1 月は平年より高めの気温でした。特に 11 月の気温が高かったため、西日本を中心に休眠打破の時期が平年より遅れた見込みです。2 月は平年並み、3 月は平年より高めの気温が予想されています。

開花時期は、東日本では平年並みか平年より早く、西日本では平年並みか平年より遅いでしょう。

***現時点での近畿各地の開花・満開日の予想。**

大阪	開花	3 月 28 日	満開	4 月 4 日
京都		3 月 27 日		4 月 4 日
神戸		3 月 30 日		4 月 6 日
奈良		3 月 29 日		4 月 4 日
和歌山		3 月 27 日		4 月 4 日
彦根		4 月 1 日		4 月 7 日

3. 既に始まった本年度のサクラの開花情報（気象庁発表）

12 月のクリスマス寒波の後、北海道や東北を除き正月を挟んでしばらくは比較的温暖な日が続いていましたが、1 月下旬になって今年一番の北極寒気団の南下とかで、日本全域が冷蔵庫に入ったような状況、当地でも降雪・わずかばかりの積雪や路面凍結がみられました。付近では、サザンカやツバキは勿論、ボケ、紅梅・白梅、蟠梅などの開花は見られルートものの、サクラの開花などまだまだ先の話とっ

したが、奄美・沖縄地区での基準である「ヒカンザクラ」の開花発表がありましたので掲載しておきます。

地域	新平年値	昨年	今年
名瀬（奄美）	1月20日	1月18日	1月20日
沖 縄	1月16日	1月11日	1月7日
宮古島	1月17日	1月16日	1月19日
石垣島	1月18日	1月27日	1月31日現在発表なし

これまでも報告してきましたように、「ヒカンザクラ」は奄美・沖縄地区だけでなく、本州でも暖地であれば生育が可能で関東以西では植栽されている場所もあります。花が下向きに咲き、平開しないので地味。庭木や公園樹としての植栽地は少ないようです。当地では、既報のように、芦屋川河岸の公園に若木ですが5本ほど植栽されていますので観測の対象として来ています。

「ヒカンザクラ（別名の寒緋桜が使われる場合が多い）」は亜熱帯域・台湾などが原産ですので、休眠打破？の温度域も高く、本州でも秋季には目覚めているようです。従って、開花は冬季の気温次第、本州の「ヤマザクラ群」とは異なり、冬季気温の高いほど開花も早い様です。

すこし、距離がありますが日々の近所歩きの足を延ばし冬芽の状況の観察に出かけました。1月28日、右の画像のように花芽が少し大きくなり先の方が変色したかなと言う状況、開花は2月中旬以降かなと思います。



4. カワズザクラ（河津桜）

前述の「ヒカンザクラ」を母種とする本種も、本州では最も早く開花する桜として知られています。原木は伊豆半島・河津町にあり、この附近が特に有名で、毎年、河津町観光課主催の「桜祭り」が開かれて来ています。この地域の情報を調べてみますと、本年2023年の「河津さくら祭り」は3年ぶりに行動制限のない状態で2月1日~28日の間開催されると報じられています。ただし、開花は例年より遅れ、2月中頃で2分咲きぐらいになるとのことです。

河津桜は、最近では各地に植栽されるようになって来ています。関西では、京都の淀の河岸緑地の並木が有名ですが、私の散策コースの芦屋市・東山公園にも町内会の人々が植栽・管理している場所があり、観察地に決めている。ここには、何度かに分け植栽されたく、幹回りの異なる個体が30本ほどあるので観察地としています。ここでは、幹回り80cmほどの個体を標準木として来ています。昨年度は新しく植栽されたと思われる樹の開花が可成り早かったが今年はどうであろうかと、1月26日に第1回目の観察に出かけました。成木・若木共に花芽が膨れたり、芽の先が伸び緑色を帯びて来ていることが分かりました。勿論、休眠打破されていることは明白。多分、母種である「ヒカンザクラ」と同様、秋季には休眠打破され、開花は冬季の温度次第となっているのであろう。（上は、観察木の花芽）



5. 秋咲き桜の今

・ジュウガツザクラとコブクザクラ

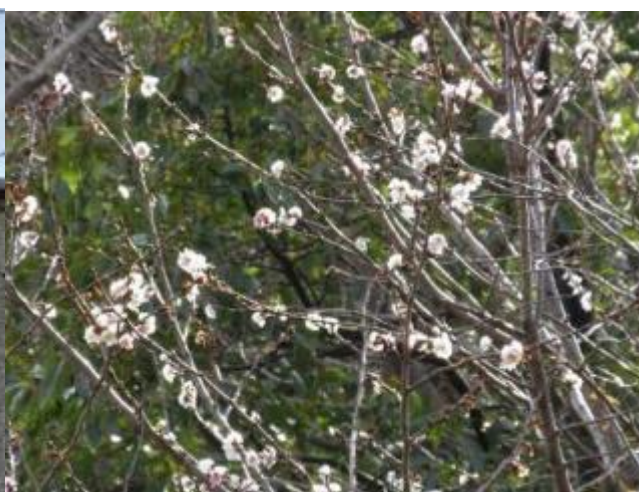
秋～初春に咲くサクラについては **2020 年サクラだより 別報 3** に、頂いた京都植物園の情報を基にまとめました。これ等の内の日課の近所歩きのコースで見られる 種は「ジュウガツザクラ」（数か所）と「コブクザクラ」（2ヶ所）の 2 種です。この 2 種については開花・満開といった記録はとってはいませんが、昨シーズンと今シーズンでは開花の状況が違っているように思います。

ジュウガツザクラに関しては、開花は 11 月初旬、その後は冬の間も細々と咲き続け 3 月中旬に満開に近い開花が見られるというパターンでした。一方、今シーズンは 10 月、11 月の高温の影響か開花が遅れ開花が 11 月中旬以降、12 月中旬以降に花数が増え現時点では 3～4 分咲きの状態です。

コブクザクラに関してもほぼ同じ状態、こちらは秋に昨シーズンは一度開花し 1 月ごろには咲いていても数輪、殆ど花が見られない状況で、春先に一挙に開花するというパターンであったと思います。ところが今シーズンは 12 月には下方に少しの開花が見られた後、休止状態になることなく 1 月に入って上方の枝の花も開花、花数を増やして来ているように思います。昨シーズンはジュウガツザクラ同様 3 月中旬には満開に近い開花がみられたのですが今シーズンは春先の開花がどうなるか興味のあるところです。両者の現在の開花状況の写真を添付しておきます。（樹高 5～6 m の成木です。）



❁ジュウガツザクラ（芦屋市・岩園町）



❁コブクザクラ（芦屋市・岩園町）

6. サクラに関する et cetera

＊「ソメイヨシノ」の開花・満開などの調査。

既に、大釈さんから過去 3 年間のソメイヨシノの観測結果を踏まえ、本年度は「休眠打破」の期間だけでなく、開花や満開に影響を与えたのではないかと推測される樹の「揚水」の難易度が推測されそうな具体的な観測方、記録記載用シートが配信されています。本年度の観測は、これまでの様に単に身近で観測できるソメイヨシノの開花・満開日を見るだけでなく、観測対象樹の老若（幹回りのサイズで区分）や主幹や枝の剪定の有無・強弱も記録することとなっています。調査の趣旨、詳細は配信された書面をご覧ください。

- ・本年度の調査では、開花期に先立ち予め「観測地・観測木」を決めて置く必要があります。特に、幹や枝の剪定の有無や強弱は開花以降には観測ができません。枯れ枝状態となっている冬季がチャンスです。
- ・参考の為、過去に個人的な観測で開花・満開の早かった樹、遅かった樹の現在の姿を紹介しておきます。

6-1. 附近で毎年最も早く開花・満開の見られるソメイヨシノの樹形

公園や個人の庭に植えられたサクラではありません。道の縁に直接植え付けられた樹です。この附近の一画にはこの様に、道の縁に植え付けられたサクラが20本ほど残っています。右の写真でも後方左右にこのような植込みが見られると思います。恐らく、住宅地が開発された時代に植栽されたものではないかと思っています。何れも直径が50cmは超える老木、車の通行や個人の庭木の邪魔にならないよう強剪定されており、樹高も6mほどとなっています。中には表面まで腐食が及び表面をトタンで覆ったような樹も数本あります。ただ、写真の樹は古くに強剪定を受けた形跡はみられますが、樹径に比べ上方の枝は細く（若い？）樹高も低いので開花が早いのではないかと思います。この一画のサクラは近くの公園などの樹に比べて総じて開花が早いように思われます。（枝先への揚水が容易なのかも）



6-2. 私の観察木について現在の姿

2020年から住居に近い小公園での「ソメイヨシノ」の開花日・満開日の記録を報告して来ている。その内、公園内では毎年附近のサクラより開花が早いとして標準木に挙げ観測を続けて来た個体が下の写真。「ソメイヨシノ」はクローンであり、同じ気象（気温）条件下では「休眠打破」は同じ、またその後の気温経緯も同じと考えれば「開花」も同じであろう観測を続けて来た次第。そうでなければ各地の気象台が「地域の開花の基準となる標準木」を定め70年間も記録を残して来、今なお観測を続けて来ているはずがないと考えたからであった。

本題にもどって、私の観測木、樹齢は不明であるが幹回り178cm、樹高は6mほど。ただし、写真右の様に太い幹に強度の剪定が入っている。（正面に見られる幹の裁断跡は一昨年度枯れ、昨年は花を付けなかったため裁断されたもの。最近では切り跡には癒合剤と呼ばれる薬剤での処理がなされている。）老木で強度の剪定が入っていても、残った枝が健全で樹高も低い・・・「揚水」の容易さを考えると開花の早くなる要因ではなかろうかと思っています。上述の街路樹の個体の姿とも共通する？



✿開花の早い樹について記述したが、それでは遅い樹の姿はどうかという疑問も当然出てくる。私の観察木の内、最も開花・満開の遅い樹の写真を参考の為挙げておきます。住居西の芦屋市の私有地、石垣上の



斜面に植栽されているので立ち入りは不可。目測では幹の太さは60cm?樹高は12~3mの高木です。場所がら一切の剪定は入っておらず自然体の個体です。周囲に樹木もあり、映像では全容は中々つかまりにくい個体です。一応、下部の望遠写真を試みましたが



下部での分岐か、株立ちなのかの判断はできません。

今年は附近で幼木や成木の個体、剪定の有無などを入れて個体数を増やした観測を続ける方針です。

6-3. 夙川公園（正式名には「夙川河川敷緑地」）

夙川公園の桜に関しては右のような満開期の写真等毎年紹介して来ています。市の広報では、サクラの植栽は1949年に河川の両岸に沿って河口から阪急苦楽園口間2.7Kmの両岸に約1000本のソメイヨシノが植えられ、現在では、「ソメイヨシノ」1,200本、ヤマザクラ70本、オオシマザクラ100本、その他1サトザクラ等14種を加え1,660本が植えられていると



のこと。日本サクラ百選にも選ばれる桜の名所。今年の「ソメイヨシノ」のグループ観察地の候補にならないかと下見に出かけた。植栽後、70年もたてば幹の太い樹が多いのではと思われたが、写真でお気付きのように、植栽は石垣の近く、囲いもなくむき出しの遊歩道となっています。その所為かこの季節にみると、幹も精々径40cmほど、殆どの樹で枝枯れや幹の腐食脱落（自然剪定?）が多い樹形。く今回の区分では「無」はなく「強」が殆ど河川筋だけで観測は難しいと感じられました。

下見の結果、一応河岸沿いだけではなく、普段は人の行き来の少ない夙川公民館周囲の公園を含めグループ観測地とする方針です。メンバーが決まれば実際の観測木を決めて行こうと思っています。

・余談ですが、このエリアには新しく植栽されたと思われる樹高3mほどの若木が見られました。この樹について樹種・植栽時期など知りたく、市のホームページから多分・土木部・公園管理課であろうと思い指定の書式に従い問い合わせしてみました。翌日、「公園管理課」ではなく「花と緑」課という部署より

回答があり、昨年秋に夙川公園周辺で「ソメイヨシノ」24本、「夙川舞桜」など4本を植えたとの回答がありました。観察予定エリア河川緑地には「ソメイヨシノ」3本、公園内には「夙川舞桜」が1本植えられたことを知りました。勿論、これ等は今年の調査対象外です。

新しく植えられたサクラは要注意（樹高だけでは判断不能・・・下記参照）。所轄の市などにお問い合わせ下さい。市のHPから質問できると思います。

6-4. 「ソメイヨシノ」の植栽。

私的な話ですが、1月23日に住居の中庭に3本の「ソメイヨシノ」が植えられました。「苗木」ではなく、樹高5～6m、胸高での周囲が18, 22, 28cmの若木です。植込みに来た園芸業者に聞いたところ、別の苗木屋から樹高2m程の苗木を購入、5～6年業者の畑で育てたものとのこと。予め「根回し」し、根部を土と共に麻布や麻縄を使って50cmほどの半球状に梱包、現地に穴を掘ってそのまま植込み、杭などを使って支えるのが普通のようです。麻布などは、土中で3ヶ月～6ヶ月も立てば、腐食し土に戻る所以根の伸張には関係無いのでしょうか。土付きで移植するのは、根と共生する菌根菌に関係しているのでしょうか。右



の写真のように、幹には地上1mほどには麻布が巻かれています。樹皮保護？の目的でしょうか。このように麻布の巻かれた樹は新しく植栽された樹でしょう。最近、結構生育した樹も植えられるので、「若木・Y区分」剪定には事前調査が必要でしょう。

6-5 「大島桜参考の為のお引越し」

紙面があまったので余談の余談。最近のNHK TV（プレミアム）で昨年1月放映された表題の番組の再放送がありました。見られた方がいらっしゃるかもしれませんが・・・。内容は

「横浜市戸塚区にある樹齢150年の大島桜。長年住民に愛されてきたが、土地の譲渡に伴い伐採の話が持ち上がる。桜を救おうと立ち上がったのが、全国に名がとどろく桜守・佐野藤右衛門93歳。佐野たちは100メートルほど離れた土地に「引っ越し」させようと決断する。しかし大島桜は重さ推定50トン。小高い丘にあり、高压電線を乗り越えなければならない。前代未聞の引っ越しはどうなるのか？」をドキュメンタリー風に記録した番組でした。現代の「桜守」京都在住の3代目佐野藤右衛門氏の指揮のもと、移植に伴う樹木や移転場所の調査、根の掘り起こし、根回し、上部の幹の選抜・剪定、大型クレーンを使って吊り上げ、根切り、横倒しとして吊り上げと移送、植樹まで。興味があったのは、新しく移植する穴底に「木炭」を敷き詰めていたこと、幹切断面に墨汁・和蝋での防腐、防水処置が採用されていたことでした。

以上